えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう
April 2019
Écoutez Bien　Vol.36　No.409

4

先生たちも挑戦している!

表紙の人／荒井家四代（柴崎町）

沼本コレクション 点と線 ⑦

立川駅周辺に係わる話

案内人
沼本忠次氏（日本鉄道構内営業中央会　事務局長）

立川駅北口　昭和50年代（写真：えくてびあん）

立川駅の位置付けは、首都圏の西エリアと山梨、長野方面への輸送の拠点です。

早いもので、私が立川に勤務していた頃からもう25年以上経ちました。それ以前にも立川にはよく出向き、昭和50年代の記憶を遡れば、北口には木造平屋建て一部2階の駅舎本屋があり、駅前大通りは現在の原型に近く、三井信託銀行や左側に高島屋、大通り左側には丸井など大型店舗がありました。駅前も少し過ぎるともう木造の平屋、あるいは2階建て民家がびっしりと建ち並び、いかにも地方都市といった風情を感じる町でした。

一方の南口側の昭和50年代は、開発が遅れ駅前商店街などの道は狭く、バスや乗用車の交替も大変なようで、舗装してあっても道路状態が悪く、雨が降ると水たまりができ車が通ると泥が跳ねあがるという状態でした。南口の駅舎は平屋で、小さな民家のようでした。街並みも駅前からほとんどが木造の平屋、あるいは2階建ての民家で、区画整理以前の南口には大きな建物があった記憶はほとんどありません。平屋の南口駅舎があった場所は、現在エキュート立川が建っている辺りになり、南口旧駅舎の右側が現在のグランデュオ辺りになります。

昭和50年代の立川駅南口（写真：武田和紀）

南武線と中央線の線間には、当時貨物列車が停まっていました。現在、南口側南武線はグランデュオの設備で盤張りをして、下は暗いですが、これができる前は明るく南武線の旅客線のすぐ南側に貨物の通過線があり、貨物として運んでいた石灰石は重いために、まわりの民家などは地響きで揺れていました。その貨物列車は、京浜地区へ石灰石の輸送をし、電気機関車も茶色で前面にデッキが付いていて、野武士のような風貌の機関車でした。西国立駅構内にあったこの機関車は、寝庫（ねぐら）が立川機関区に所属しているものでした。この機関車の寝庫の立川機関区は現西国立駅ホームの川崎よりの先端にありました。現在、この跡地はマンションに変貌しています。

立川駅　南武線と貨物の線路

以前南武線にあった駅「東立川」は1929年（昭和4年）12月11日、分倍河原―立川間開通時に開設され、1944年（昭和19年）南武鉄道の国有化と同時に廃止されました。駅周辺には当時日本では数少ない点火栓の工場 株式会社立川工作所（TELCO: Tachikawa Engineering Laboratory Co.）がありました。大正10年8月に設立された会社で、社長は貿易商で軽井沢も開発した野澤源次郎氏の長男、野澤三喜三氏。立川工作所は昭和9年に株式会社化され、近くの中央線踏切は野澤工場に由来する「野澤踏切」と呼ばれていましたが、中央線の高架化で踏切もなくなり、工作所跡はドライビングスクールに姿を変えています。

昭和58年　電気機関車引退の記念切符

［インタビュー］

きらり！この顔

Tachikawa Inside Outside
あの人、この人、立川人 60

［ 立川に育まれて ① ］

趣味の呉服 丸屋本店

三代目 伊藤平八朗氏

立川に生まれて95年。老舗の歴史とともに生き、街とともに送る日々。
淡々と語る言葉は経てきた年月に裏打ちされている。

◆「もともとは砂川の出身だ」

――もともとは砂川だそうですね。

伊藤　元禄6年に砂川へ来たんだが、どこから来たかはわからない。もともとは加藤という家だったんだ。

――どちらの加藤さんですか。

伊藤　いまふじ幼稚園やっている加藤積一さんのところの加藤家なんだが、その加藤家とうちの加藤が分かれたのは10代前なんだそうだ。ここに写っているのが私の知る範囲の先祖だ。

――どなたかの法事のお写真ですね。これはどこのお寺ですか？

伊藤　砂川の流泉寺。

――伊藤さんのお宅の菩提寺は流泉寺なのですか？

伊藤　違う、違う。本家の菩提寺が流泉寺。伊藤平吉というのが明治33年に立川へ出てきたんだよ。それで立川で昭和12年に亡くなって、お墓は普済寺だ。

――平吉さんはお祖父さんですよね。加藤さんがどこで伊藤さんになるのですか？

伊藤　これは平吉の関係の系譜。「伊藤平吉、民次郎の養子に入る」ってあるな。平吉は加藤の家から除籍になっている。

――ああ、加藤のお宅から伊藤民次郎さんの養子になられて伊藤になったということですね。民次郎さんはご親戚ですか。

伊藤　違う。赤の他人だな。これは聞いた話だが、平吉は次男坊で兵隊にとられるから、民次郎の家の養子に入って兵隊を逃れたらしいや。で、この人を死ぬまで面倒みたらしい。その話はおやじの金蔵に聞いたわ。平吉はね、私が小学校6年の時に亡くなってるんだ。

――どんなお祖父さんだったのですか？

伊藤　平吉はね、商人としては中の上で、呉服小売業で夫婦円満、私は一緒に暮らしていたんだけど非常に厳格な人だったね。なんていうか、近寄り難かったね。私と親父と寿満（スマ）と平吉とは、座敷で飯食ってた。あとの連中は、うちのお袋なんかもそうだけど、みんな板の間で飯食ってたな。

――寿満さんはお祖母さんですね。お母さんも板の間？

伊藤　うん。お袋は嫁に来たんだから。金蔵と私は正当な跡継ぎだからな。

――平吉さんはどうして亡くなったんですか？

伊藤　脳溢血だ。昭和12年1月29日だな。平吉はね、立川の助役をやってるな。立川市史に出てたよ。私は知らなかったんだよ。あれを見たら出てた。

――氏子総代にもなって地域貢献もしていたんですね。

伊藤　これが私の祖母さん、寿満だ。砂川の石橋というところで呉服屋をやっていて、平吉を婿にもらったんだ。平吉は加藤の本家から来たんで、親戚同士だ。平吉と寿満は停車場（立川駅）へ行けということになったんだな。

――あの頃は停車場に人が集まってきていましたからね。

伊藤　立川へ行ってよかったんだよ。砂川にいたんじゃ、ご飯は食べられないね。立川村3114番地に出てきた。3114番地っていうのはね、今、タクロスが建っているところね。そこにいて3121番地に引っ越したんだな。

――それが、今のビックカメラのところ？

伊藤　そうだ。長女のナミと次女のタツは砂川で生まれている。ナミは高等尋常小学校を出ている。タツは今の南多摩高校を出ているんだ。ナミは錦町6丁目の内藤という米屋に嫁に行ったんだ。タツは兵庫県の米田という産婦人科へ嫁に行っているんだ。長男の金蔵も砂川で生まれたんだが、三女のトヨと四女の芳江は立川で生まれた。ここにみんな書いてあるわ。引っ越すときにもこんな書類が必要だったんだな。

――よくお持ちでしたね、こんな古い書類。「砂川村ヨリ明治33年12月1日　丸屋開店日　立川村3121番地」って書いてありますよ。

伊藤　調べたんだよ。俺なんかこの時生きてないんだから、わかりっこないよ（笑）。

――それなのにこんなに古い資料がおありなのですから、さすがですね。

伊藤　うちは最初っから呉服屋をやっていたんだな。砂川の本家でも呉服屋だったんだから。ただ寿満の方は調べきれなかった。同じ加藤だけどね。

◆「私の生まれは立川町3121番地」

――ご自宅は錦町なんですよね。でも北口の町会。

伊藤　そうだ。うちは曙町2丁目南町会のお付き合いだからね。私が生まれたのは立川町3121番地だ。昔は仲町って言ったんだ。仲町、本町、吾妻町ってね。

――伊藤さんのお宅の近くに新井写真館さんがありましたよね。

伊藤　あった。新井写真館も古いけれど、うちよりは新しい。うちの裏には新井写真館と水野写真店と写真屋が2軒あったな。うちの隣は好生堂薬局という薬屋で、うちの家作に住んでいた菅谷さんがやっていたね。後に菅谷忠正さんというせがれがたましんの会長になった。その隣が竹内屋って団子屋だったな。竹内さんは俺より年下だ。うちのおやじの平吉の時も土葬だけど、あそこも土葬だったな。あの時は寝棺じゃなかったな、座棺だった。平吉は寝棺だった。ここで亡くなって、普済寺まで行列して行ったよ。

――立川でもそういう時代があったんですね。

丸屋本店　開店10周年　前列左から3人目が伊藤金蔵

丸屋本店及伊勢丹開店記念（1970．9．8）

左が伊藤平八朗氏

どこを通って普済寺まで行かれたのですか？

伊藤　仲町から本町の銀座通りを通って、今地下道になっているところの踏切、諏訪通から石屋のところを通って普済寺までだ。平吉の葬儀の時には小川幸喜ってのが町長でね、その人が弔辞を読んでいたな。諏訪神社の高橋宮司もね、弔辞を読んでる。それはまだ仏様のところに置いてあるわ。

――諏訪神社の高橋宮司とおっしゃったのは、現宮司のお祖父さんですよね。平吉さんの亡くなったのは昭和12年とおっしゃいましたものね。

伊藤　そうだ。私が小学校6年の時だな。

――その頃はまだ強制疎開前で、丸屋さんも広い敷地だったんですよね。

伊藤　うちは通りから通りまで突き抜けていたからな。それでも砂川では古いけれど立川では新しい。八百吉商店ってあるだろう？

――中村さんですよね。

伊藤　そうだ。八百吉商店なんかは元禄16年からだからな。普済寺に行って見てみるとわかる。みんな停車場に集まってきていたんだな。

――東盛舎って…。

伊藤　あった！ あそこは中山牛乳屋だ。今は自転車置き場になっているかな、そこが農場だった。私は小学校から帰る時、学校を出て村野さんのところの松林に寄って、相撲がかかったり曲馬団がかかったりしていたからそこへ寄って、東盛舎の所を通って、尾崎さんの所で練炭作ってて、橋詰さんの所で石鹸作って、そんなのを見て、うちへ帰ると4時か5時だ。水汲みが大変だ。五右衛門風呂に水を入れるのに、タンクがあってよ、水をタンクに貯めなきゃならない。

――松林と言えば、その近所に井筒屋という饅頭屋が…。

伊藤　あった！ 呉服の中里さんと親戚だ。あれは今シネマ通りでやってるだろ。

――はい。話は戻りますが、なぜご自宅は錦町なのですか？

伊藤　強制疎開があったから。曙町の地所はもとは200坪くらいあったんだけれども、強制疎開で取られちゃって。それを戦後伊藤金蔵が、安井誠一郎先生のところへ掛け合いに行って20坪戻ったんですよ。その20坪が生きて、現在の礎を築いたんだな。錦町には昭和19年くらいからいるんじゃないかな。

◆「金蔵は道楽者だったね」

――お父様のことを教えてください。

伊藤　金蔵はね、ひとり息子だから道楽してね。勘当されてたんだな、一時。それで店を任せるのに、金蔵の妹のトヨに、酉蔵って人が養子に来てるんだ。だから、平吉も酉蔵も加藤の総本家から婿に来ているんだ。

――酉蔵さんも元は加藤さんなんですね。

伊藤　そうだ。トヨと酉蔵には女の子が2人いた。ところが、勘当していた金蔵に私ができた。そうなると、平吉と寿満としてはやはり自分の息子に跡を継がせたいと考えたんだろう。それで結局金蔵は勘当を解かれてね、店を継ぐことになったのよ。

――伊藤さんも、息子さんの良三さんも、街のお役をたくさんされていますが、金蔵さんの頃からそうだったのですか？

伊藤　金蔵は、まあ、街の仕事はしなかったな。商店街連合会もあんまりやらなかったね。私はよくお袋に言われんだ。お前は馬糞茸（まぐそたけ）だって。馬糞茸っていうのは、竹やぶにね、ポコポコ知らずに生えてくるって言うんだ。松茸とちがって。なんでも持ってくるものを引き受けるのは、馬糞茸っていうんだって。だから役職は多かった。

――戦争にも行かれたんですよね。

伊藤　行った。私は男ばかりの4人兄弟で、弟は私より先に戦争に行ってるんだ。次男は島根県の松江に行ったんだけど、私が送って行ったんだ。京都まで東海道線の電気機関車で、京都から山陰線は汽車ポッポだよ。トンネルだらけだから、もうすごかったね、煙で。三男は所沢の飛行連隊。特別幹部候補生でね、これが家を出て行く時は、全部私物を片づけていったね。みんな無事に帰って来たけどね。

――伊藤さんご自身は？

伊藤　私は白紙（しろがみ）で、現役で徴兵検査をして行ったんだ。当時は稲城の造兵廠に勤めていた。そこから召集されて、家へ帰ってはいけないと言われて、造兵廠から上野へ行って夜中の12時に集合なんだ。普通の恰好で、万歳万歳なんて送らないで、その時分はもう秘密裏に集合。そこから列車に乗せられて、朝着いたところが福島県。到着してびっくりだよね。よかったと思ったね。下関だったらと思うとね。私が一緒に試験を受けた同年兵たちは樺太の方に行っちゃったし、幹部候補生を受けていたら南方だったな。だから要するに、戦争は運だな。それと、長男は残すっていう主義があったから、アメリカの映画にあったじゃないか。

――プライベートライアン。

伊藤　そうそう。それと同じだ。長男を残さないと日本が絶えちゃう。

――波乱万丈ですね。伊藤さんと同年代の方というと……。

伊藤　私の1級上に中里さんって、中屋さんがいたな。亡くなっちゃったけど。

――そうですね。

伊藤　今の中里晋さんのお父さんだな。中屋さんは小学校が私の1級上だからよく知っているだろうと普済寺が言ってね、お父さんのお通夜でお別れの言葉を述べてくれって言われたんだ。

――そうだったんですか。

伊藤　だから、俺のお通夜の時は、今の中里さんにお別れの言葉をやってもらおうと思ってる。覚えてて。

――それは、良三さんにおっしゃってくださいね（笑）。でもまだまだお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

伊藤平八朗氏

1924年7月8日生まれ

（インタビューは平成30年9月22日ご自宅事務所で）

街を歩けば
出会いの輪を広げて

先生たちの挑戦

子どもたちの可能性を信じて

やることは違っても、先生たちの願いはひとつ。
たとえ短い時間でも、集中しみんなで支え合い、ひとり1人の力を出し切って、
何かを掴んでほしいのだ。立川の空の下、先生たちも挑戦している。

對馬（つしま）洋 校長

立川市立第一小学校

2月後半、夏から個々に取り組んできた卒業論文の発表会本番の日。選んだ研究テーマは身近な立川市の歴史や観光、特産物についてまとめたものや、立川市にある問題点に目を向けて建設的な持論を展開するもの、あるいは自分たちの興味の対象について熱弁を振るうものなど多岐に渡った。企業広報担当が聞いたら涙して喜ぶにちがいないと思われるものもあり、この自由さが面白くどの発表も最後まで飽きることがなかった。研究テーマもさることながら、アンケートをとる、取材に行くなど、発表するまでの過程とそれを人前で述べるスキルがすばらしい。学級発表で選ばれた数人は3月に行われる学年発表を経て、学校発表へと進む。多忙な中学・高校にはひとつの事をじっくり研究するチャンスがない。大学生もあまり卒論を書かなくなった今、ひとつの課題に取り組む機会は小学校にしかないと對馬校長は言う。子どもたちはもちろん、指導する先生たちにも自由にやってもらう。見学する下級生は「自分の番になったら…」と目を輝かせている。卒論を導入して3年、對馬校長のチャレンジは確かに実を結び始めている。

對馬校長　発表の内容には校長先生でも知らない事実があったりする

資料は典拠をきちんと示す

他の児童の発表にも真剣に聞き入っている

下級生も保護者も地域の人も聞きに来ている

パワーポイントは4年生から使用しているので、機能を熟知している児童たち

※全校発表会など続報をお楽しみに。

川崎達也 校長

立川市立立川第八中学校

2月3日、今年も都内の中学2年生が出場する「東京駅伝」大会がアミノバイタルフィールド&都立武蔵野の森公園周回コースで開催された。2010年から開催されている区市町村対抗の駅伝大会で、本年が10回目。立川市も、選考会から選ばれた市内9校の中学校と都立立川国際中等教育学校の選手たちが、揃いのユニフォーム、ウインドブレーカー、ウォーミングアップパーカー、ランニングシューズで大会に臨んだ。結果は、団体女子の部が22位、過去の最高タイムを1分22秒縮めて特別賞を受賞。男子は団体37位に終わったが、第1区走者の和田勇樹君が個人の部2.195kmで5位敢闘賞に輝いた。男女総合は29位。総監督を務めたのは第八中学校の川崎校長。12月から始まった合同練習は寒い日が多く雪がちらついたこともあったが、毎回他の先生たちと一緒に大きな声で生徒たちを励まし続けた。結団式には知らない顔も多かった生徒たち。まずはお互いを知り合うことから始めて、1月末の最後の練習では襷の受け渡しに時間をかけた。本番の日、川崎校長が一回り細くなっていたように見えたが、気のせいだろうか。

川崎校長　いつも大きな声で励まし続けていた

総監督の川崎校長（右）と
監督やコーチの先生方（結団式で）

練習風景

大会当日　午後の男子の部　第1区で
立川は5位に入る

選手、関係者が揃った立川市代表の集合写真
（結団式で）

※多摩てばこネットに詳細記事を掲載中。

どんな時も一緒に楽しむ

立川YA(ヤングアメリカンズ)
運営スタッフは保護者の皆さん

本番で

ワークショップで

YAキャストとお別れ前
「一期一会」の1枚

井土（いづち）満 校長

立川市立若葉台小学校

2月12日、若葉台小学校の体育館に約40人の外国人がやってきた。YA（ヤングアメリカンズ）カレッジの学生たちだ。歌や踊りの研修を積み、子どもたちのヒーローYAキャストへと成長し世界へ飛び出していく。そのジャパンツアーを学校へ誘致したいと保護者から話を持ちかけられた井土校長。何が起こるのか、予想もつかない中に承諾した。本来なら3日間のワークショップ。それを1日で行うのに不安が無いわけがない。前日夕刻、若葉台小学校に到着したYAキャストたちは、ボランティアのホームステイ先へ向かい、翌朝は子どもたちと一緒に登校した。体育館で初めて5、6年生と対面する。緊張か…。いや、そこはさすがにYAキャスト。卓越した交流スキルであっという間に子どもたちと和んでいく。そこからは一気にワークショップへ。校長先生も一緒に歌って、踊って、写真を撮って。いよいよ午後は本番タイム。来賓や保護者、ホームステイ先家族など、体育館は超満員。5年生も6年生も大きな声で、全身を動かして、笑って笑って精一杯のパフォーマンスを見事に披露。「よくやったじゃないか！」と子どもたちに声をかけ、最後は校長先生も感動の表情だった。

※多摩てばこネットに
詳細記事を掲載中。

井土校長、児童たちがやりきったショータイムを見届けて

東大和市郷土博物館プラネタリウムで
イベントの練習

イベントの反省会後に立川高校屋上で（立川高校生徒以外にも中大附属、桐朋学園の生徒も）

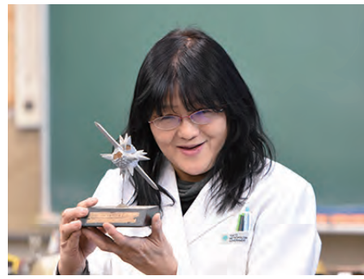
屋上での天体観望会
（写真提供：可長清美先生）

都立高校でドームを持って天体観測できる学校は少ない

可長（かちょう）清美 先生

都立立川高校天文気象部

12月27日東大和市郷土博物館にあるプラネタリウムで、「中高生のプラネタリウム発表会～ぼくらのプラネタリウム☆」が開催された。天文関連の部活動に取り組む中高生がプラネタリウム投影プログラムを自ら製作し上映・解説も行うイベントだ。ここに登場するのが都立立川高校天文気象部。立川高校以外にも近隣の私立中高校が2校参加していた。2月2日、このイベントの反省会冒頭、可長先生は言った――オタクって悪いことじゃなくて、文化とか科学はオタクが支えている、と。2018年4月から立川高校は文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けている。全国で200校、都内は私立も含めて13校。5年間の指定期間中、将来の国際的な科学技術人材を育成することを目的とし、理数系教育に重点を置いて取り組む。昨年8月にはSSH全国研究発表会において立高の研究が奨励賞を受賞。天文気象部の活躍はめざましく、高校総合文化祭では東京都の代表となる優秀賞受賞、太陽黒点の研究で今夏全国大会に出場する。立高の黒点研究は長い歴史を持っているが、今年は3月に開催される天文学会でも発表するという、ものすごい「オタク」力なのだ。50人ものハイレベルオタクを率いる可長先生。ただものではない。


可長先生　1902年発売の放散虫の模型を手に（立川高校は東京府立第二中学校として1901年開校）

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 羽衣町・錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。

羽衣町

BB TAKAOKA …… 521-0236
まごころ銘茶 狭山園 …… 527-0146
お好み焼ともんじゃ焼 こけし 526-1267

錦町

めがね・とけい・補聴器 カワハラ 525-4427
鳥料理 くし秀 …… 522-7692
寿司勝 …… 522-4874
IL COVO …… 595-9071
イタリア料理 トラットリア ドン シェ～ 512-8735
宮地楽器 MUSIC JOY 立川南 526-1779
中国料理 五十番 …… 522-7472
一六珈琲店 …… 527-1680
手づくりみそ 材料専門店 北島こうじ店 524-3190
new gyoza 1059　餃子天国 526-2283
バル アラディ …… 523-3917
CAFE SOMMEILLER …… 527-1440
中国整体院 …… 529-1088
本格手作り中華まん 金包堂 548-0182
日本クッキングスクール …… 522-3440
元祖５本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616
ホテル日航立川 東京 …… 521-1111
美容室 アリス …… 525-1100
豆やキッチン pocotto …… 808-7507
FALCO hair …… 528-2389
N HAIR WORLD …… 523-5336
創作料理 caffe & bar 厨～kuriya～ 595-7449
TTM（株）…… 524-5787
Bakery Café Crown …… 526-2226
日本空手道 佐藤塾 …… 548-7460
三田花店本店 …… 524-4187
いわさき痛みの整骨院 …… 529-5123
にしやま薬局 …… 525-9212
たましん RISURU ホール　526-1311
たましん 錦町支店 …… 528-0511
カレー店 CHOTA …… 525-1004
パン工房 グラーティア …… 512-8667
そば処 高尾亭 …… 522-2710
Natural Food Restaulant シェいなば 529-5921
Garden & Crafts café 0120-412-877
至誠学舎立川 …… 527-7734
至誠ホーム …… 527-0031
至誠介護相談センター …… 527-0321

柴崎町

諏訪神社 …… 522-2968
毎日新聞社グループ（株）毎日広告社 522-6121
パスタビーノ はしや …… 521-3386
高島ビル …… 526-0111
Hair Room MOON ZETTON 523-0961
南武堂剣道具店 …… 527-0197
ビジネスホテル 小沢屋 …… 523-0388
おしゃべりカフェトーク・スペース 527-1636
ESBI 立川南口店 …… 526-2947
（株）一心堂 …… 527-3777
すがの歯科 …… 540-2675
紙匠 雅 …… 548-1388
あすなろクリニック …… 529-2756
ビストロこづ …… 525-9929
入船茶屋 …… 524-6266
チーズフォンデュと欧風料理 クワトロ 528-2983

立川市外

昭島市
ECO'S 昭島店 …… 546-3710
武蔵村山市
中国料理 菜 …… 561-7233
国分寺市
パンの店 fermata …… 534-3334

jorakugajo
真如苑提供番組〈常楽我浄〉
スカパー！：529ch
スカパー！で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。
J:COM 多摩：111ch
放送時間については番組表をご確認ください。
www.shinnyo-en.or.jp

街の話題 TOPICS OF TACHIKAWA

古式ゆかしく「稚児行列」

3月28日（木）、柴崎町では「稚児行列」が催されます。これは真如苑の伊藤真乗（しんじょう）開祖（1906－1989）の誕生をお祝いする法要に伴って行われるものです。多くのお子さんが参加し烏帽子や天冠など昔ながらの衣装を身につけて、立川駅から柴崎町内を練り歩き真如苑総本部へ向かいます。稚児行列の開始は10時45分から。なかなか見ることのできない昔ながらの稚児行列、沿道や諏訪公園内で、是非お稚児さんたちを応援してあげてください。

昨年10月に行われた稚児行列の様子

春の消防フェア

快晴の3月2日（土）、立川消防フェア2019が開催されました。消防車やヘリコプター、はしご車の乗車体験は大人気。長い列を作っていました。今年の目玉はなんといっても東京消防庁に1台しかないVR防災体験車。火災編、地震編、水害編があるそうですが、今回は地震のバーチャル体験です。震度7は想像以上にリアルで恐怖を感じました。イベントの最後はヘリコプターも飛んできての一斉放水。東京消防庁航空隊やハイパーレスキュー隊も参加する大型体験型イベントは、約2000人の来場者で大賑わいでした。ガスメーター復帰方法や電子レンジによる火災発生実験などについては多摩てばこネットをご覧ください。

東京消防庁第八消防方面訓練場で

地震をリアルに体験できるVR車

月輪と青い朝

2月18日から19日にかけて、満月に近づき始めていた月の周りには大きな光の輪が出ていました。冬の満月は夏の満月より空の高いところを通るのだそうですが、19日深夜から20日にかけて、満月の前後1時間以内に日本のほとんどの地域で月は南中したそうです。立川でも大きな満月がよく見えました。2月の満月は2019年最大となり、通常の満月に比べて14％視直径が大きく、30％明るく見えたそうです。20日の朝、東京は幻想的な靄の中。静かに満月は西の空に沈んでいきました。1月の満月に続き、今年も美しい天体ショーが続いています。

朝日を受けて沈んでいく満月（2月20日早朝）

2月18日の月輪

立川から世界へ！ゲンコツ・立川立飛大会

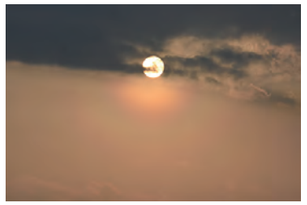
開催挨拶の中で清水庄平市長が「記念すべき日」とした2月17日。初めて立川でプロボクシングイベントが開催されました。主催は立川ボクシング推進実行委員会と石川ボクシングジム立川。石川ボクシングジム立川の石川久美子会長が、先代会長の「立川の皆さまに生のボクシングを見て頂きたい」という願いを実現させての開催です。会場には初めて生でボクシングを観るという方も多く、その迫力に「はまりそう～」と。引退式の10カウントゴングは会場一体となって感動的でした。詳細は多摩てばこネットをご覧ください。

アリーナ立川立飛で

花の季節は花粉の季節？

花の便りが続々と届きます。桜の見ごろは随時多摩てばこネットに更新されていますので、ご覧ください。この時期に空を見上げると、太陽の周りに虹色の光の環が見えることがあります。花粉光環というそうです。確かに花粉の時期にだけ見える現象。花粉だと思うとあまり見たくない方も多いでしょう。写真は、立川で今年最初に花粉光環が見られた日のものです。まだ花粉が少ないので光の環は薄いですが、夕陽の中にきれいでした。

2月26日夕方に撮影



おじゃましま～す！69

街カフェ コクーン（COCOON）

昨年の晩秋、富士見町にオープンした「街カフェ コクーン」。店名の「繭」（英：COCOON）をイメージさせる、真っ白なまあるい建物が目を引きます。運営は、お隣「井上レディースクリニック」院長の井上裕子さん。「産科に通う方専用のカフェ？」「男性も入れるの？」と中に入るのをためらう方も多いようですが、どなたでも気軽に利用できる、まさに街のカフェです。

〒190-0013
立川市富士見町1-26-10
コミュニティビル安庵2階
TEL 042-595-6515

営業時間　10:00～22:00
定休日　木曜日
駐車場
　店舗に隣接する
　コインパーキングがあります

☆詳しくは、『多摩てばこネット』
　［お店情報］をご覧ください。

自家製鶏ハムの棒棒鶏プレート

食は、ロカボ（低糖食）、薬膳、しっかり食べる系と3つのコンセプトで展開。イタリアンと自然食が得意なシェフが、2つをかけ合わせた「おいしくて体にいい」オリジナルメニューで迎えます。ロカボは月替わりと日替わりの2種類。ある月は、自家製鶏ハムの棒棒鶏プレート。低温調理によって、鶏肉を柔らかくジューシーに仕上げています。糖質の高いご飯の替わりに添えるのは、ふすま粉を使って焼く手作りブランパン。サラダは彩りや食感の違うものを混ぜ合わせ、野菜を楽しんで味わえるよう工夫。また、人気の定番オムハヤシ。ブラウンソースのルーを丁寧に一から手作り、デザートも充実しています。食はもちろん、お一人で、お子様と、車イスでなど多様なスタイルに応える、広くて解放感のある空間も魅力。ありそうでちょっとないお店の誕生です。

オムハヤシ

表紙の人

左から　荒井慎二さん、チャビ、高部陽二さん
璃陽（りお）くん、梨紅（りく）さん、琉陽（るお）くん、荒井艶子さん
大輔さん、栄子さん

柴崎町普済寺近くの荒井家は、この土地で何代目だかわからないくらい長いのだそう。昔は農家だったそうですが、今はそれぞれのお仕事に就いていらっしゃいます。艶子さんは八王子から嫁いでこられてもう50年。慎二さんと栄子さんは中学校の同級生です。ご一家に共通なもの、それがお囃子。慎二さんは柴一はやし連、通称番場ばやしの代表を務めていらっしゃいます。お嬢さんの梨紅さんとご主人の高部陽二さんはお囃子で出会ってご結婚。まだ2歳にならない琉陽くんも太鼓を叩いたりするそうです。ご長男の大輔さんは？とうかがうと、いまでも時々一緒になさるのだとか。文久2年発足の番場ばやし、地の人がいて伝統は守られていくんですね！お祭りが楽しみです。

かたこと

◆まもなく元号が変わる4月です。大変お待たせ致しました。えくてびあんも気持ち新たに復刊の運びとなりました。立川駅130周年に駅弁のスペシャリスト沼本忠次さんの連載を継続。多摩立川保健所の野菜企画は、農業がさかんな立川だからこそ、満を持してのスタートです。ご期待ください◆休刊していた4か月、たくさんのお声を頂戴しました。そのほとんどが励ましのお言葉で、「立川にえくてびあんはなくてはならない」とまで頂き、本当にありがたく心より感謝申し上げます◆休刊は、作り手であるスタッフが客観的に「月刊えくてびあん」を見るチャンスでもありました。立川とはどんな街なのか、どんな歴史に立っているのか、どんな人たちが集まっているのか。その中で果たして本当に立川の街に寄り添って冊子を作っているか◆周辺の自治体にも赴いて刊行されている冊子を拝見しましたが、どこにも「月刊えくてびあん」的存在の冊子はありませんでした。広告を入れず、どんな所ともどんな人とも等距離でおつきあい。貫く柱は「立川愛」です◆これからも立川のいろいろな面を切り取って、えくてびあんのwebサイト『多摩てばこネット』と連動し、より広く、より深く立川に関わっていく所存です。以前にも増してのご指導ご鞭撻賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©
4月号　第36巻　通巻409号

平成31年4月1日発行
発行　有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10　高島ビル4F
TEL 042-528-0082　FAX 042-528-0065
E-mail　message@tamatebakonet.jp
URL　https://www.tamatebakonet.jp
発行人　黒須　環
企画・写真・編集　えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷　三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

多摩立川保健所によると、必要なカルシウムやカリウム、ビタミンC、食物繊維などの栄養素を十分確保するためには、1日 350gの野菜を食べることがお勧めだそうです。でも都民の平均摂取量は 275gで、あと一皿野菜が欲しいところ！

そこで、立川市内の飲食店で多摩立川保健所の「野菜メニュー店」になっているお店をご紹介します。今月は若葉町にあるレストラン サラさん。高齢者にやさしいレストラン。何歳になってもみんなで楽しく集える場所をとの思いから 20 年前に始められ、高齢者のお宅にお弁当を宅配もしてくれています。お肉は柔らかく調理してありますが、それでも大変な方にはハサミをいれてくれます。献立は日替わりで、メインは肉か魚か選べます。地元野菜を使った添加物なしの安心安全ランチです。

本日の定食 A（豚肉と青梗菜（ちんげんさい）の炒め物）870円（税込）
野菜の量 約260g

野菜はいっぱい食べやさい ①

監修：東京都多摩立川保健所

本日の定食 B（さわらの漬け焼き）
870円（税込） 野菜の量 約260g

レストラン サラ

立川市若葉町 1-10-1　1F
TEL & FAX　042-534-0602
営業時間　11：00 ～ 18：00
日曜定休